

## パネルディスカッション「どう変わる？高校入試と『学び』」開催！ 県下各地から130名余りが参加、「学びの改革」について意見交換

「長野県の教育を考える会※」は1月21日、松本市でパネルディスカッション「どう変わる？高校入試と『学び』」を開催しました。当日は、はじめに事務局から、「学びの改革」の問題点と入学者選抜制度検討委員会での検討経過と問題点について報告しました。その後、明科高校の実践報告をしました。続いて5人のパネラーの皆さんの発言とそれを受けてフロアの参加者を交えて様々な立場から意見を交換しました。

※2012年に民間教育団体、教育研究者、県教組、高教組が呼びかけ結成、36団体で構成



県教委が示した再編案  
を図式化したもの  
(作成：高教組)

### 第2期再編の枠組みと再編手順

改訂版

#### 全日制高校

#### 都市部存立校

市街地に位置し、地理的条件から学校群として一体的に将来像を検討することが望ましい全日制高校を「都市部存立校」とする

都市部存立普通校  
(6学級以上が望ましく  
8学級の設置も目指す)

普通高校(総合学科高校、普通科の割合が半数以上の普職併設校を含む)

5学級募集を実施時点  
**検討開始**  
(4学級募集しない)

都市部存立専門校  
(3学級以上が望ましい)

職業教育を主とする専門高校(普通科の割合が半数未満の普職併設校を含む)

3学級募集を実施時点  
**検討開始**  
(2学級募集しない)

#### 中山間地存立校 (3学級以上が望ましい)

左の条件を満たさない全日制高校を「中山間地存立校」とする

2学級募集を実施時点  
**検討開始**

#### 中山間地存立特定校

県境に近い地域で、その高校がなくなることにより、他県の高校に行かざるを得ない学校。地域の支援を受けて1学級でも存続の道を探る

当該校のみを検討対象にするのではなく、旧12通学区内のすべての県立高校の将来像を考えると、必要に応じては他の通学区の県立高校も検討に加える

在籍生徒数520人以下の状態が2年連続した場合  
**再編対象**

在籍生徒数280人以下の状態が2年連続した場合  
**再編対象**

在籍生徒数120人以下の状態、もしくは、在籍生徒数160人以下かつ卒業生の半数以上が当該高校へ入学している中学校がない状態が2年連続した場合  
**再編対象**

#### 再編対象となった場合の選択肢

- ①他校との統合
- ②募集停止

#### 再編対象となった場合の選択肢

- ①他校との統合
- ②地域キャンパス化(分校化)※
- ③「中山間地存立特定校」の指定※
- ④募集停止

#### 定時制(多部制・単位制含む)・通信制課程

- ①定時制専門学科を普通科へ転換する事を検討
- ②第1期高校再編において未設置の北信地区への多部制・単位制高校の設置を含めた適正配置を検討
- ③南信地区においては、旧第9通学区から多部制・単位制高校への通学が難しいという意見があり、今後検討

※全校の在籍生徒数が60人以下の状態が2年連続で募集停止を検討

県教委は「再編基準は変えない」  
「2021年3月までに再編計画を確定」としている  
けど…



都市部普通校で4学級規模の中規模校は再編対象となる。  
教職員と生徒の距離が近く、ゆきとどいた教育ができるのに…。

高校でも少人数学級を導入すべきでは。地域と結びついた学びがどんどんなくしていいのだろうか？

# 子どもたちの願いをふまえた改革になっているのか？

パネルディスカッションでは、中学校教員、高校教員、現在小中高校に通う子どもを持つ保護者、高校の学びで進路を見つけた大学生、地域で無料子ども塾に関わっているスタッフの方が、それぞれの立場で高校再編と高校生の学びについて意見を交わしました。

【パネラー：佐久市立東中学校教員】岩下さん

## 再編基準、「AP(アドミッション・ポリシー)」は問題あり、どの子にも進路保障を

佐久地区の都市部存立普通校はどれも5学級規模で、すべての学校が再編対象です。こんな機械的な基準は地域の実態に合っていません。また、中学生を送り出す立場から見て「アドミッションポリシー」という考え方はとても気になります。中学卒業段階で明確な「夢」だとか「適性」だとかを見いだせる子はほとんどいません。高校が特色を競い合うことより、「普通の子が普通に勉強すれば入れる高校が、普通に通える距離にあること」……これが子どもや保護者にとっても、送り出す私たちにとっても一番重要な条件だと思います。公立高校って、いろんな事情や課題を抱えた生徒であっても、自分のペースでもう一度学び直したり、そこでまた変わっていきける場であってほしいです。入り口で一部の生徒を排除するような仕組みは望みません。同時に、高校改革の一環として県立高校の入試制度も議論されていますが、受験生や進路指導にあたる教職員の不安や負担を増すような「改革」にならないか、危惧しています。

【パネラー：明科高校教員】溝口さん

## 学校は人とのつながりが大切、数だけで再編の対象には違和感を感じる

明科高校は4クラスだが、中山間地存立校の基準としては2クラスになった段階で、再編対象となります。まだ3クラスなので大丈夫と言われているが、今後も明科の地で残っていけるか不安に思います。

明科高校は4クラスで少ないクラスなので、生徒一人ひとりのことがよく分かります。そのクラスに合った授業をすることもできますし、この子が今日はちょっと元気ない顔をしているなということも気がつきます。教師と生徒の関わりがすごく大切になっているので、数で何クラスになったから再編対象だとなってしまうことにはすごく不安に思っているところです。各学校の実態や生徒の様子を何も気にされないような、数だけで2クラスになったら再編の対象だということには、すごく違和感があります。生徒は高校に入ってからがんばりたいという気持ちがすごくあって、高校に入ってから変わるとか夢を見つけていくことが多いのに、再編でだんだん学校がなくなってしまい、学校を選べなくなってしまうことが心配です。もっと学校の現状や生徒の実態を考えながら、再編などを考えてほしいなと思います。

【パネラー：小・中・高校生の子どもの保護者】山本さん

## 何が変更されようとしているのか分からない、「改革」に関心を持ちたい

今回の高校の改革で何が行われているのか、何が変更されようとしているのか新聞などで情報を得ようとしたのですが、よく分かりませんでした。他の保護者の皆さんもそうではないでしょうか。上の方でいろいろ決められても、実際に受験するのは私たち子どもです。保護者としてもっと関心を持たなければいけないと思いました。全県一区という話がありましたが、もしその学校にどうしても行きたいというのであれば、そこに行ける選択肢が残されているのは親としてはありがたいと思います。また、長野県は地域との交流を大切にしている学校が多く、自分の受験体験と比べるとのんびりし過ぎているのではと心配していましたが、娘が「ブドウの作業をしながら、地域の方と話して楽しかった」とか「保育園に手伝いに行っただけで子どもたちがかわいかった」と話すのを聞くと、親だけでなく地域の皆さんに育てていただいていることに感謝しました。勉強だけでなく人間的に豊かに育つ大切さを知り、この環境で子育てができてよかったと思っています。

【パネラー：大学生】牛越さん

## 地域に根ざした高校は幅広く将来をみつめられる

前期をなくして、後期に面接を義務化するという事なんですけど、僕はやっぱり前期と後期は分けた方がいいと思います。普通科は全部前期やるんじゃなくて面接もなくていい、その理由は、将来が決まっていなくて普通科に行きたいので、面接をやっても合格するために、いいように繕うと思います。商業科や工業科は前期試験をやる上で自分の考えがまとまっていると思うので、面接は必要んじゃないかなと思いました。高校での経験なんですけど、最初は将来何になるかなんて決まらずにいたんですけど、「明科いいまちつくろうかい!!」に参加しているうちに、僕自身が地域のことに関わることを将来やりたいと思い始めました。会議に参加していると地域でこんなこと困っているとか、こんなことがよくなっていくといいという話を聞き、ぜひその地域を活性化させたいと考えるようになり、いま松本大学に通っています。そんなことも地元で根ざした高校だからこそのことで、将来が見えてくると思うので、地元で根ざした高校は幅広く将来をみつめられる高校になるのではないかと思います。

【パネラー：松本無料子ども塾スタッフ】井上さん

## 高校は新しいスタート地点に立てるところ、機械的な再編はやめてほしい

子ども塾でみている中学生にも学習が遅れがあったり、穴ぼこがあったりするお子さんがいらっしゃいます。でも高校というのは、それまでいろいろあったけれども、リセットして新しいスタート地点に立てるところということでとても大きな意味合いがあると思っています。自分が学習面で足りないところがあるのは本人が一番よく分かっています。高校へ行きたいという目標が設定できたとき、すごくがんばります。そこを応援したいと思っています。高校の3年間は、新しいスタート地点に立って、必要な関係をいろいろな人と関わって築いていく自分の将来をどんな風になりたいか、どんな風に生きていきたいか、どんな仕事に就きたいか、そこを考えることができる貴重な3年間だと思うんです。

高校は公教育です。AP、CP、DPのような大学のまねをしても始まらないと思います。子どもたちは、高校へ行って部活がんばりたいとか、あそこの高校に入りたいとか、割と単純なことで決めています。普通に入れる普通高校がたくさんあってほしいと思います。多部制・単位制の学校もあってほしい。機械的な再編はやめてほしいと思います。

【コーディネーター：松本大学教授】武者さん

## 高校は自分自身を探求する場、全ての子どもたちに保障されるべき

机上の議論で、統計で、ここは統合基準を緩めてとか、もうちょっと踏ん張って残すかという議論がされています。明科高校もひとつの典型的な例だと思いますが、どの学校にもどの地域にも子どもの数が多い少ないにかかわらず、学びはそこにあり、感動的なドラマはあるんです。学校があればこそということで、殻を破り、自分のやりたいことはこれかなとつかみかけて大学に進学した牛越さんの例はそんなひとつかなと思います。そういった意味でも高校は全ての子どもたちにとって、保障されるということが必要ではないでしょうか。

いま長野県では小中一貫校だとか、中高一貫校などが進められています。高校の学びを中学校からやってしまう、小中一貫校であれば小学校4年から教科担任制を入れて、前倒ししていくことをやっています。AP、CP、DPなどの大学でやることを高校へ下ろしていこうという発想になってきています。

子ども時代を、自分を探求する時代を減らしてしまっているのか。地域にとってどうなのかという観点とともに、子どもの長い人生の中で、かけがえのないこの時間をどう保障するのも課題です。高校は自分自身を探求する場であり、こういうものが自分かな、この先自分はこうしたいというものを茫洋なりともつかめる時間は大事なのではないのでしょうか。そこしか行けないからというような、他人に与えられた人生を子どもに歩ませてはいけないんじゃないかと考えながら、報告の皆さんの発言ですとかフロアーの発言を聞きました。

## ◆参加者の感想やご意見



パネラーの井上さんの「(高校の)非常に大事な3年間」ということが印象に残りました。「学び」を転換すると県教委からは提示されていますが、そもそも何を転換するのか。子どもはそれに合わせて何か変わらなければならないのか、と思います。明科高校の例をお聞きし、地域をつくっている大人の側が「ここで働いて生きる充足した社会」の姿を見せられれば良いと思います。何だかカッコイイ横文字を使った「改革」はその対極にあるように思えてなりません。(保護者)

高校は、人生の目的や将来の目標がまだ定まらない、中学校を卒業した子どもたちが、3年間で自分自身の生き方の方向性をつかんでいく場所です。それにも関わらず、現在行われている改革の方向、とりわけAPによって、子どもたちを排除することにつながるが大変心配です。(中学校教職員)

中学校段階で自分の将来の計画を立てられる生徒はいいのだろうが、大半の生徒はそういう見通しを持っていないのが普通だと思うし、無理に決めることが決していいことではないと思う。今日の議論でも出ていたように、普通の高校が通える範囲にあることが大切だと思う。(高校教職員)

6・3・3制義務教育実現のための教育予算実現を。人間が成長するのは中学より高校にかけてだと思う。ずり落ちそうな子をつき落とすのではなく、引き上げるのが大人の役目だと思う。かつては、地域のよりどころが学校だったから、お金を出し合ってもつかった学びの場だったはず。それを取り戻したい。(一般)

小学校現場にいると高校入試が今後どう変わっていくのか、高校再編がどうなっていくのか、ほとんど知識がなかったので、資料を読ませていただいたり、パネラーや参加者の方のお話を聞いたりする中で、とても勉強になりました。こういった情報を職場でもしっかり伝えていきたいと感じました。(小学校教職員)



# 「学びの改革」は問題あり！

## 県教委「『学びの改革 実施方針』策定に向けて」公表

2017年7月から8月に旧12通学区単位で開催された地域懇談会で、質問や疑問、異論がたくさん寄せられ、当初案では10月に予定していた「実施方針（案）」の公表は2018年3月へと変更されました。11月15日の定例会で示された「策定にむけて」という県教委文書は、再編基準についての記述は、「もう議論済み」と言わんばかりに簡略化し、ICTの導入や大学入試改革に対応する盛りだくさんの「学び」の記述を新たに加え、県民には改革の本質が分かりにくくなりました。また名称も「学びの改革」から「高校改革～夢に挑戦する学び」と変更されました。これは「学びの改革」のあらたな段階と言うべき内容で、以下の問題点があります。

### 【問題点1】全ての地域の再編計画を3年で決定

当初の提案（基本構想）では、再編の検討は、例えば都市部立普通高校について「5学級募集を開始した時点」から学校が教育委員会とともに「地域全体の将来像を検討しながら」考えるとしていました（1面参照）。ところが、今回提案されたスケジュールは、2030年の中学卒業生予測をもとに、2021年3月までに全県のすべての地域の高校再編計画を確定することを求めています。2021年時点では再編基準に該当する学校があるかどうかとは無関係に、計画に組み込まれることとなります。



### 【問題点3】モデル校方式は教育格差拡大

改革の推進の方策として、「スーパー探究科」、「信州型スーパーグローバル校」、「国際バカロレア研究校」、「産業スペシャリスト育成校」などモデル校を指定する方式を採ることが提案されました。ICT環境の充実に予算をつぎ込む施策が県財政を圧迫する中、県全体の高校の教育条件整備を後回しにして一部の指定された高校への重点的な予算配分を行うことは、教育の格差をいっそう広げるものです。また「再編統合校」には「校舎・施設・設備を整備する」として、財政面から再編へと誘導をしています。

### 【問題点5】再編基準の議論は終わったとしている

再編の問題では、都市部校について「小規模校分立の状況回避」の名のもとに、「生徒との距離が近くゆきとどいた教育ができる」中規模校である4学級規模の学校を否定しています。「基準を引き下げてもいずれば少子化で対応することになる」とし、早期に再編に取り組む姿勢です。今回の提案では「投資効果の最大化」の文言も使われ、この改革が財政的な要請から出ているものであることを物語っています。

### 【問題点2】各校の特色を競わせ、入試へも拡大

すべての高校が「育てたい人物像」DP「教育内容」CP「入学を望む生徒」APなどの方針（3つのポリシー）を決めるとし、それを高校入試でも活用するとしています。この「3つのポリシー」は大学改革の中で法制化されたものです。全国から募集する研究組織である大学と違って、公立高校、とりわけ普通高校に求められているのは、どの地域にあっても等しく教育が保障されることであり、それぞれの学校が特色を競い、個別化を図ることはありません。「この学校で学びたい」という生徒を受け入れ、その生徒の個性を育むのが学校の役割です。「育てたい人物像」をあらかじめ定め、「どのような生徒の入学を望むのか」を定めることは、入学する生徒の排除にもつながる危険性があり、公教育の役割の放棄です。

### 【問題点4】少人数学級編制モデル校方式で極めて限定的

今回の提案において「少人数学習集団」とともに、初めて「学校の課題や生徒の状況に応じた少人数の生活集団の導入を研究する」として少人数編制クラスに言及したことは、私たちの長年の運動の成果です。しかし、県教委はモデル校方式で極めて限定的な導入しか考えていないことを窺わせます。県独自の予算措置まで踏み込んで、対象校を広げることの検討を求めます。

### ★入試制度検討 ここが問題だ！

- ①今後のスケジュールには、すでに決定したものとして「APを反映した入学者選抜制度の改革」と記載されている。  
※AP…どのような生徒の入学を望むか示したもの
- ②入試制度がこれまで中学校で重視してきた生徒の「進路保障」上で困難のある提案になっている。
- ③入試制度検討委員会では県教委の提案に対して異論も出され、結論が出ていないにもかかわらず、委員長一任で「報告書」が出されようとしている。



### ■資料請求や学習会のご相談/ご意見

#### 【あて先】

○長野県高等学校教職員組合

〒380-8790

長野市県町593 高校会館

TEL:026-234-2216 FAX:026-234-2219

E-mail:kyobun.nagano-h@educas.jp

○長野県教職員組合

〒380-0846

長野市旭町1098 長野県教育会館

TEL:026-235-3700 FAX:026-234-6260

E-mail:kyoubun@ntu-net.com